

都市再生整備計画 事後評価シート
石和温泉駅周辺地区

平成29年3月

山梨県笛吹市

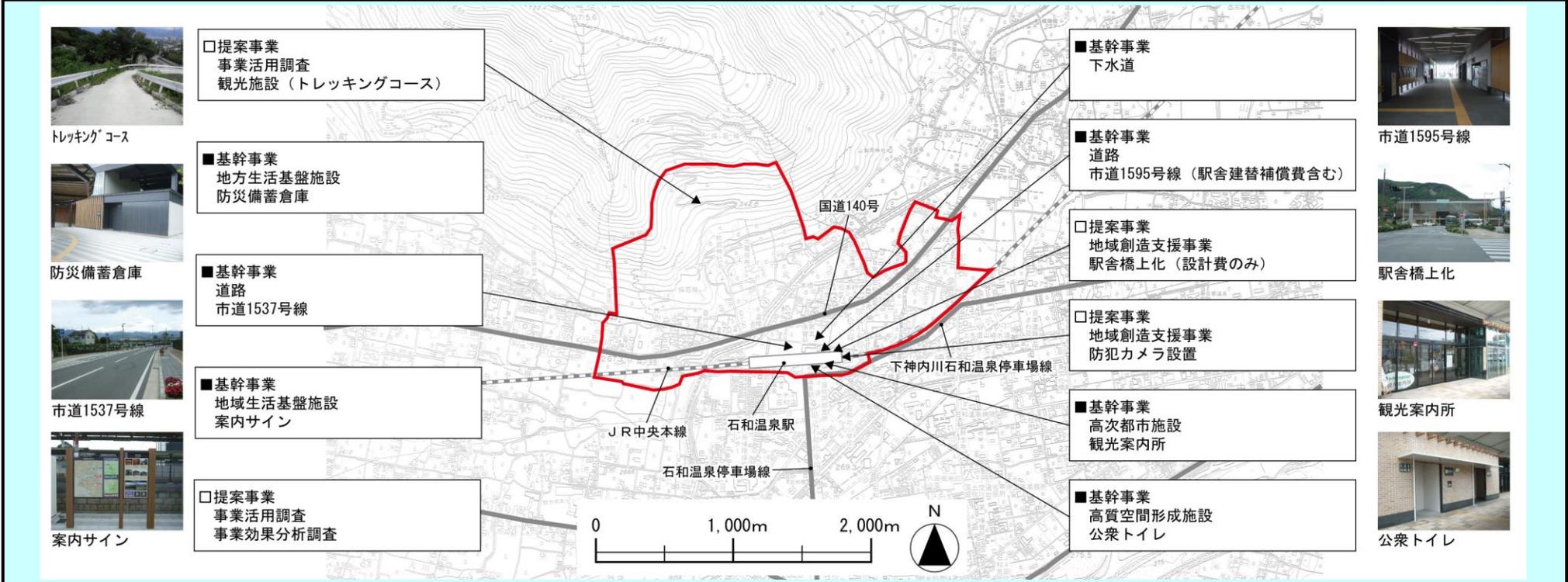
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山梨県		市町村名	笛吹市		地区名	石和温泉駅周辺地区			面積	74ha			
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	3,117百万円	国费率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道1537号線、市道1595号線(駅舎建替補償費含む)、下水道、地域生活基盤施設(北口駐車場、北口自転車置き場、案内サイン)、高質空間形成施設(公衆トイレ)、高次都市施設(観光案内所)											
		提案事業	地域創造支援事業(石和温泉駅舎橋上化)、事業活用調査(事業効果分析調査、[仮称]サイン計画調査検討、[仮称]観光情報施設活用調査検討)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(北口駐車場、北口自転車置き場)	市道1537号線の一部として整備するものとし、削除			削除/追加の理由						削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		提案事業	事業活用調査([仮称]サイン計画調査検討)	市単独費で対応することとしたため事業を削除									影響なし	
			事業活用調査([仮称]観光情報施設活用調査検討)	地域創造支援事業として実施する観光施設整備に事業を変更したため削除									目標を定量化する指標「駅北側の駅利用率の増加」に影響があるが、目標値は据え置いた	
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(防災備蓄倉庫)	地区の生活環境の充実のため事業を追加									目標を定量化する指標「世帯数増加率」に影響があるが、目標値は据え置いた	
		提案事業	地域創造支援事業(防犯カメラ設置)	犯罪の予防を目的として事業を追加									目標を定量化する指標「世帯数増加率」及び「駅北側の駅利用率の増加」に影響があるが、目標値は据え置いた	
			地域創造支援事業(観光施設整備)	既存の観光資源を活用したふれあい空間を創出するため事業を追加									目標を定量化する指標「駅北側の駅利用率の増加」に影響があるが、目標値は据え置いた	
	交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
		変更	変更なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	世帯数増加率	%	0	H21	11	H26		2.8	△	あり なし	○	基盤整備等により地区の魅力が高まっており、地区の世帯数は増加傾向にあるが、農地の土地利用転換が急速に進むところまでは効果が出ていない。	H30.4
	指標2	駅北側の駅利用率の増加	%	14.7	H20	16	H26		8.6	×	あり なし	○	路線バスやホテルの送迎バスが南口に集中しているため北口の利用率が低調で、目標を達成していない。	H30.4
指標4										あり なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	その他の数値指標1	石和温泉駅の乗車人員	人/日	2,590	H21				2,785			駅周辺の整備により利便性が向上し、乗車人員が約8%増加している。指標2で目標としていた1.3%の増加を大きく上回っている。	-	
その他の数値指標2	大蔵経寺山の登山者数	人/年	360	H21				742			登山道・トレッキングコースが整備され、トレイルランニングも開催されるようになり、登山者数が2倍以上増加した。	-		
その他の数値指標3	子育て支援センターきつずいさわの利用人数	人/年	1,133	H25				3,515			駅北口周辺の整備により利便性や施設の魅力が向上し、利用者数が約3倍に増加している。	-		
4)定性的な効果発現状況	駅のバリアフリー化により、他の駅を利用していた身障者の方が石和温泉駅を利用するようになった。													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	ユニバーサルデザインおよび障害者視点による施設意見交換会の実施 近隣住民に対する住民説明会の実施 周辺地域「地域審議会」への付議		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○ 利用者の意見交換会等を開催し、より利用しやすい施設に改善を行う。 供用開始後の地元意見を聞き取り、フォローアップし、今後の改善や次事業への反映を図る。						
	持続的なまちづくり体制の構築	笛吹ローズクラブによる駅南口広場のバラ植栽維持活動 大蔵経寺山を利用したトレイルラン大会の実施 地元高校生による植栽・清掃活動の実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○ 「バラ」の普及活動、協働による維持活動を継続する。 「大蔵経寺山」の活用により、北口の活性化を図っていく。 美化・清掃活動により活力を創出していく。また、市民と協働でより暮らしやすいきれいな駅周辺の整備を図っていく。						

様式2-2 地区の概要

石和温泉駅周辺地区(山梨県笛吹市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 笛吹市の顔としてふさわしい交通拠点の形成と地域資源を活かした魅力あるまちづくり 目標1: 交通結節拠点としての機能高め快適で暮らしやすい都市空間の形成 目標2: 地域固有の観光・歴史文化資源の活用による賑わいとふれあいの創出	世帯数増加率	単位:%	0 H21	11 H26	2.8 H26
	駅北側の駅利用率の増加	単位:%	14.7 H20	16 H26	8.6 H28



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 市内の各地域と駅とを結ぶ公共交通(バス等)が脆弱で、駅と各地域を結ぶ交通機能が十分でない。 南口に利用者が偏っており、北口の利用率が低い。 潜在化している地域資源がまだ多数あるため、資源の掘り起こしに取り組み、まちづくりに活用していく必要がある。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 既存の南口駅前広場の機能向上を図り、駅の利便性を向上させる。 駅前への交番の設置により、安心安全なまちづくりを推進する。 駅周辺の水辺空間を活用したまちづくりを推進し、地域の魅力向上を図る。 駅と各地域を結ぶ公共交通機関について、利便性の向上に向けた再編や新たなシステムの検討を図り、鉄道利用率の向上を図る。 潜在化している資源周辺の整備、サイン整備、周遊ルートの整備、PRなどにより、地域資源のまちづくりへの活用を図る。 路線バス、駅北側のホテルの送迎バス、スクールバスの北口乗り入れの要請し、自家用車で送迎の北口利用のPRなどにより、北口の利用率の向上を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道1537号線	864	W=12m L=80m (A=2,500㎡)	563	W=12.5m L=80m (A=4,999㎡)	実施設計の確定による規模の変更と事業費の減額	影響なし	○	
道路	市道1595号線(駅舎建替補償費含む)	443	W=6m L=50m	2,245	W=6m L=40m	実施設計の確定による規模の変更、駅舎建替補償費の追加による事業費の増額	影響なし	○	
公園									
河川									
下水道		332	L=840m	91	L=875m	実施設計の確定による規模の変更と事業費の減額	影響なし	○	
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	北口駐車場	62	平面 1,300㎡、50台	-	-	市道1537号線の一部として整備するものとし、削除	影響なし	-	
地域生活基盤施設	北口自転車置き場	65	平面 750㎡、200台	-	-	市道1537号線の一部として整備するものとし、削除	影響なし	-	
地域生活基盤施設	防災備蓄倉庫	-	-	50	53㎡	地区の生活環境の充実のため事業を追加	目標を定量化する指標「世帯数増加率」に影響があるが、目標値は据え置いた	○	
地域生活基盤施設	案内サイン	12	総合案内サイン1基 誘導サイン8基	10	総合案内サイン1基 誘導サイン8基	実施設計の確定による事業費の減額	影響なし	○	
高質空間形成施設	公衆トイレ	27	55㎡	102	2箇所、99㎡	駅利用者の利便性向上のため箇所数を変更したことによる事業費の増額	目標を定量化する指標「世帯数増加率」及び「駅北側の駅利用率の増加」に影響があるが、目標値は据え置いた	○	
高次都市施設	観光案内所	311	262㎡	114	88㎡	実施設計の確定による規模の縮小と事業費の減額	目標を定量化する指標「駅北側の駅利用率の増加」に影響があるが、目標値は据え置いた	○	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無		
			基準 年度			基準 年度		目標 年度					あり	なし		
指標1	世帯数増加率	%	平成22年4月1日現在及び平成26年4月1日現在の石和温泉駅周辺地区内の世帯数から世帯数の増加率を計測し、評価値とする。			0	H21	11	H26	モニタリング			モニタリング			○
										事後評価	確定見込み	○	2.8	事後評価	△	
指標2	駅北側の駅利用率の増加	%	平成28年9月1日に駅北側及び南側の利用人数を実測し、その結果から駅北側の駅利用率を計測し、評価値とする。			14.7	H20	16	H26	モニタリング			モニタリング			○
										事後評価	確定見込み	○	8.6	事後評価	×	
指標3										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	計測の結果、世帯数は増加傾向にあるが、目標値である11%には届いておらず、目標を達成していない。	
指標2	計測の結果、目標値である16%を大きく下回っており、目標を達成していない。	従前値は北口の整備前に、徒歩圏(2km)の利用を想定して推計した数値である。しかし、実際には徒歩での利用者だけでなく、自転車や車での送迎により石和温泉駅を利用している利用者が多い。市民の約9割は駅南側に居住していることや観光施設の立地状況等を考慮すると、今回の計測値は、市全域を反映した数値と考えられる。路線バスの北口への乗り入れ、駅北側事業者やスクールバスの北口利用の要請、自家用車での送迎の北口利用のPRなどに取り組むとともに、今後の駅北口活性化の進展により利用率上昇が期待できる。
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
				基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	石和温泉駅の乗車人員	人/日	平成28年9月にJR東日本発表の数値より計測し、評価値とする。			2,590	H21	モニタリング			駅および周辺の利便性が向上し、利用者が増加したことを示す指標として取り上げる。	
								事後評価	確定見込み	○		
その他の数値指標2	大蔵経寺山の登山者数	人/年	平成28年10月に市資料より計測し、評価値とする。			360	H21	モニタリング			駅北側の地域資源の活用が進み、地域の賑わいやふれあいが創出されたことを示す指標として取り上げる。	
								事後評価	確定見込み	○		
その他の数値指標3	子育て支援センターきっずいさわの利用人数	人/年	平成28年9月に市資料より計測し、評価値とする。			1,133	H25	モニタリング			地区の利便性が向上し、快適で暮らしやすい都市空間の形成が進んでいることを示す指標として取り上げる。	
								事後評価	確定見込み	○		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

駅のバリアフリー化により、他の駅を利用していた身障者の方が石和温泉駅を利用するようになった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
ユニバーサルデザインおよび障害者視点による施設意見交換会の実施 (ユニバーサルデザイン研究会、市内障害者団体【知的障害者家族会、市視覚障害者協会】)	○ 予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した ----- 予定したが実施できなかった (理由)	・実施時期：平成23年8月、平成24年1月、平成24年3月、平成28年8月、9月 (駅舎・広場工事 実施設計時、着工前、完成後) ・実施結果：点字ブロック、多目的トイレ施設の機能等に意見を反映させ、誰もが利用しやすい施設の整備を行った。	今後も、利用者の意見交換会等を開催し、より利用しやすい施設に改善を行う。
近隣住民に対する住民説明会の実施 (笛吹市石和町松本区)	○ 予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した ----- 予定したが実施できなかった (理由)	・実施時期：平成22年1月、平成24年7月、平成25年12月、平成28年2月 (駅舎・広場工事 基本設計時、着工前、施工中、完成後) ・実施結果：工事説明を行い、地元との調整を図り、地元意見を工事に反映させた。また、利用説明を行った。	供用開始後の地元意見を聞き取り、フォローアップし、今後の改善や次事業への反映を図る。
周辺地域「地域審議会」への付議 (笛吹市石和町、春日居町地区)	○ 予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した ----- 予定したが実施できなかった (理由)	・実施時期：平成23年5月、平成23年6月、平成24年8月、平成25年9月 (駅舎・広場工事 実施設計時、着工前、施工中) ・実施結果：工事説明を行い、地元との調整を図った。また、地元意見を工事に反映させた。	供用開始後の地元意見を聞き取り、フォローアップし、今後の改善や次事業への反映を図る。
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等	
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要		
笛吹ローズクラブによる駅南口広場のバラ 植栽維持活動	予定どおり実施した	○	区画整理事業において、石和温泉駅南口に市の花である「バラ」の植栽帯を整備した。 市内のバラ生産者の方を構成員に入れ、バラの世話のノウハウを学びながら活動をしている。 南北自由通路から望む一面のバラ植栽帯を官民協働で維持活動を行っている。	笛吹ローズクラブ	笛吹市の玄関口として、笛吹市の花「バラ」の普及活動を継続していくとともに、維持していくため協働して活動を継続する。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				
大蔵経寺山を利用したトレイルラン大会の実施	予定どおり実施した	○	石和温泉駅北口に位置する山梨百名山「大蔵経寺山」「兜山」を利用して、トレイルランイベントを実施。 事業主体は、市内観光事業に精通する(一社)笛吹市観光物産連盟とトレイルラン事業を各所で行っているNPO法人 スポーツエイド・ジャパンで構成されている。	(一社)笛吹市観光物産連盟 NPO法人 スポーツエイド・ジャパン	石和温泉駅北口の観光資源として「大蔵経寺山」の活用をより検討していくとともに、北口の活性化を図っていく。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				
地元高校生による植栽・清掃活動の実施	予定どおり実施した	○	笛吹市内に校舎を持つ笛吹高校が駅南口冬花の植栽活動を行い、桃花台学園が自由通路清掃活動を行っている。 両者とも社会活動学習の一環として行い、駅利用者との調整を行いながら連携して活動を継続している。	山梨県立 笛吹高等学校 山梨県立高等支援学校 桃花台学園	地域の青少年が市の玄関口である石和温泉駅で美化・清掃活動を行っていくことでより地域に活力を創出していく。 また、これをきっかけとして市民と協働でより暮らしやすいきれいな駅周辺の整備を図っていく。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
石和温泉駅周辺地区都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	関係各課リーダー級職員(経営企画課移住定住担当・企画調整担当、観光商工課観光企画担当・観光振興担当、土木課建設担当、市民活動支援課市民生活担当、防災危機管理課消防防災担当)	第1回:平成28年10月4日 第2回:平成28年10月21日	まちづくり整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

		指標の種別	その他の数値指標1	その他の数値指標2	その他の数値指標3					
		指標名	石和温泉駅の乗車人員	子育て支援センターきっずいさわの利用人数	大蔵経寺山の登山者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見			
基幹事業	(道路)市道1537号線	◎	石和温泉駅の乗車人員は、事業の実施により平成21年に比べ平成26年は約8%増加しており、指標2で目標としていた1.3%の増加を大きく上回っている。駅の利便性の向上や、市内の観光資源の魅力の向上などにより、乗車人員が増加している。	◎	駅北口の整備や本事業と並行して実施した建物の整備により、施設の魅力が向上し、利用者が約3倍に増加している。本市の中心市街地である石和温泉駅周辺において快適で暮らしやすい都市空間の形成が進んでおり、コンパクトなまちづくりにつながっている。	○	本事業により大蔵経寺山の登山道・トレッキングコースが整備され、またトレッキングコースを活用したトレイルランニングも開催されるようになった。そのため、年間の登山者数が2倍以上に増加している。これまで潜在化していた地域資源がより有効に活用されるようになり、地域の賑わいとふれあいの創出につながっている。			
	(道路)市道1595号線(駅舎建替補償費含む)	◎		◎		○				
	(下水道)	△		△		△				
	(地域生活基盤施設)防災備蓄倉庫	△		△		△				
	(地域生活基盤施設)案内サイン	◎		◎		○				
	(高質空間形成施設)公衆トイレ	◎		△		○				
(高次都市施設)観光案内所	◎	△		○						
提案事業	(地域創造支援事業)石和温泉駅舎橋上化	◎				◎			○	
	(地域創造支援事業)防犯カメラ設置	○				○			○	
	(地域創造支援事業)観光施設	◎				△			◎	
	(事業活用調査)事業効果分析調査	△		△		△				
関連事業										

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- △:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	公共交通機関の利便性の向上や地域の魅力の向上に継続して取り組み、一層の利用者数の増加をめざす。	駅周辺の公共施設の利便性の向上を図り、コンパクトなまちづくりにつなげていく。	地域の潜在化している地域資源の掘り起こしや活用に取り組み、地域の賑わいやふれあいを創出していく。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2								
指標名		世帯数増加率			駅北側の駅利用率の増加								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	(道路)市道1537号線	△	駅北口の開設や道路・下水道などの基盤施設の整備により、地区の利便性は向上しており、世帯数は増加傾向にあるが、現状では、宅地化が急速に進む状況ではない。地区の世帯数は見込み通りには伸びておらず、目標は達成されていない。	II	△	現状では、路線バス、ホテルの送迎バス等はすべて南口を利用しているため、駅の乗降客も南側に偏っている。駅の利用者数は、近年増加しているが、想定通りの北口の駅利用率となっていない。	II						
	(道路)市道1595号線(駅舎建替補償費含む)	△											
	(下水道)	△											
	(地域生活基盤施設)防災備蓄倉庫	△											
	(地域生活基盤施設)案内サイン	△											
	(高質空間形成施設)公衆トイレ	△											
(高次都市施設)観光案内所	△												
提案事業	(地域創造支援事業)石和温泉駅舎橋上化	△									△		
	(地域創造支援事業)防犯カメラ設置	△			△								
	(地域創造支援事業)観光施設	△			△								
	(事業活用調査)事業効果分析調査	△			△								
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	地区の世帯数の増加という視点だけでなく、土地利用の誘導や景観の向上に取り組み、魅力的な市街地の形成を図り、地区の活性化につなげていく。	路線バスの北口への乗り入れや駅北側に立地する事業者やスクールバスの北口利用の要請、自家用車での送迎の北口利用のPRなどにより、北口の利用率を向上させる。		
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
石和温泉駅周辺地区都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	関係各課リーダー級職員（経営企画課移住定住担当・企画調整担当、観光商工課観光企画担当・観光振興担当、土木課建設担当、市民活動支援課市民生活担当、防災危機管理課消防防災担当）	第1回：平成28年10月4日 第2回：平成28年10月21日	まちづくり整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
本市の玄関口にふさわしい駅前交通機能の強化と身近な生活基盤の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎の改築によりバリアフリー化が図られた。 ・駅北口が開設され、駅北側から駅へのアクセスが向上した。 ・駅北口の開設及びアクセス道路の整備により、駅北側の市街化のポテンシャルが高まった。 ・下水道の整備により身近な生活環境が充実した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の各地域と駅とを結ぶ公共交通(バス等)が脆弱で、駅と各地域を結ぶ交通機能が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南口に利用者が偏っており、北口の利用率が低い。
自然、歴史・文化、観光など多様な地域資源を活用したまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所や案内サインの整備により、来訪者の利便性が向上した。 ・大蔵経寺山登山道・トレッキングコースの整備により、地域資源を活用した賑わいとふれあいの創出が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在化している地域資源がまだ多数あるため、資源の掘り起こしに取り組み、まちづくりに活用していく必要がある。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	駅前交通機能の強化	・既存の南口駅前広場の機能向上を図り、駅の利便性を向上させる。	・南口駅前広場改修の検討
	身近な生活基盤の充実	・駅前への交番の設置により、安心安全なまちづくりを推進する。	・交番設置事業
	多様な地域資源を活用したまちづくりの推進	・駅周辺の水辺空間を活用したまちづくりを推進し、地域の魅力向上を図る。	・ミズベリング事業

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	公共交通機関の充実による鉄道利用率の向上	・駅と各地域を結ぶ公共交通機関について、利便性の向上に向けた再編や新たなシステムの検討を図り、鉄道利用率の向上を図る。	・公共交通機関の再編検討 ・地域の実情に即したバスシステムの検討
	潜在化している地域資源のまちづくりへの活用	・潜在化している資源周辺の整備、サイン整備、周遊ルートの整備、PRなどにより、地域資源のまちづくりへの活用を図る。	・地域資源の周辺整備事業 ・サイン整備事業 ・周遊ルートの検討とPR事業
	駅北口の利用率の向上	・路線バス、駅北側のホテルの送迎バス、スクールバスの北口への乗り入れを要請し、北口の利用率の向上を図る。 ・自家用車での送迎に北口を利用してもらうようPRをする。	・バス事業者や駅北側の事業者、スクールバスを運行する学校法人との北口利用に向けての協議 ・自家用車での送迎の北口利用のPR
・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策			

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
				年度		年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	世帯数増加率	%	0	H21	11	H26	確定 見込み	○	2.8	△	あり なし	○	H30.4	地区の世帯数を実測し、状況を確認する。	
指標2	駅北側の駅利用率の増加	%	14.7	H20	16	H26	確定 見込み	○	8.6	×	あり なし	○	H30.4	駅北側及び南側の利用人数を実測し、状況を確認する。	
指標3							確定 見込み				あり なし				
指標4							確定 見込み				あり なし				
指標5							確定 見込み				あり なし				
その他の数値指標1	石和温泉駅の乗車人員	人/日	2,590	H21	/		確定 見込み	○	2,785	/			-		
その他の数値指標2	大蔵経寺山の登山者数	人/年	360	H21	/		確定 見込み	○	742	/			-		
その他の数値指標3	子育て支援センターきっずいさわの利用人数	人/年	1,133	H25	/		確定 見込み	○	3,515	/			-		

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		数値目標に関しては、今後も向上を目指し、地域にふさわしい交通拠点の形成と地域資源を活かした魅力あるまちづくりに取り組んでいく必要がある。
	うまくいかなかった点	駅北側の駅利用率について、従前値は想定値であったことから、整備後の実測値との間に差が生じてしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	市民にわかりやすい数値目標を設定し、事業効果を明確に示すことができた。	数値目標の設定にあたっては、目標と数値目標の整合性を十分検討し、幅広い観点から事業の効果を評価できるものとする必要がある。
	うまくいかなかった点	世帯数の増加率については、事業期間内の短期間では効果が出にくい数値目標であったため、事業効果が数値に現れなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	整備にあたっては、障がい者へのヒアリングを実施し、利用者の声を反映した施設とすることができた。	住民参加や情報公開を積極的に行い、事業実施後の協働のまちづくりへと展開していく必要がある。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	計画期間の中で、必要に応じて内容の見直しを行いながら、適切に事業を実施することができた。	必要な改善点は速やかに改善し、効果的な事業を実施していく必要がある。
	うまくいかなかった点	モニタリングを実施していれば、数値目標の達成状況を中間段階で確認し、目標値の見直しや必要な改善を実施することができた。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・都市再生整備計画事業の活用予定
なし
- ・事後評価を予定している地区
上寺尾・中寺尾地区
ー上記地区の事後評価にあたっては、当地区の事後評価の結果を踏まえ、円滑に作業を実施する。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに事後評価原案を掲載	平成28年11月7日～ 平成28年11月21日	平成28年11月7日～ 平成28年11月21日	担当課への郵便、 ファックス、Eメール等	まちづくり整備課
広報掲載・回覧・個別配布	市ホームページおよびまちづくり整備課窓口で原案を公表している旨を広報に掲載	平成28年11月1日発行 広報11月号	平成28年11月7日～ 平成28年11月21日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	窓口閲覧				

住民の意見	特になし。				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	大山 勲(現山梨大学)	平成29年3月13日	まちづくり整備課	笛吹市都市計画審議会条例(既存機関である笛吹市都市計画審議会が都市再生整備計画評価委員会の要件を満たしているため、評価委員会の役割を兼ねる)	笛吹市都市計画審議会
その他の委員	池田聖仁、赤岡勝廣、若杉成剛、佐野正秀、保坂利定、河阪昌則、山下安廣、佐藤昭夫、土屋重文				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	—
	成果の評価	適切である。
	実施過程の評価	適切である。
	効果発現要因の整理	適切である。
	事後評価原案の公表の妥当性	適切である。
	その他	—
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当である。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・地域固有の観光・歴史文化資源を交流人口の増加につなげられるよう、おもてなしの体制づくりや情報発信に取り組んでいく必要がある。 ・潜在化している地域資源を掘り起こし地域の賑わいを創出していくために、住民のまちづくり活動を促進し、協働で取り組んでいくことが重要である。
	フォローアップ	・事業の評価を行う視点として、目標値による定量的な評価に加え、質的な面からも評価し、今後の事業に反映させていく必要がある。例えば北口の乗降客数の増加だけでなく、北口設置による駅北側地域の潜在的な歴史資源を活かす新たなまちづくりの誘導による地域活性化(新たな来訪者の開拓や地域住民の活動の活性化)や、駅前立地を活かした魅力的な市街地形成を図っていくため、建物用途や景観面などについて適切な規制・誘導を行いながら開発を進めていくこと(定住やにぎわいの増加)等も目標としたい。
	その他	・今後のまちづくりについて、方策を進めていく中でワークショップ等を開催するなど、住民や有識者の意見を多く取り入れよりよいまちづくりにつなげていけるよう検討する。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当である。
その他	—	

都市再生整備計画(第3回変更)

いさわおんせんえきしゅうへん
石和温泉駅周辺地区

やまなしけん ふえふきし
山梨県 笛吹市

平成26年3月

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針①本市の玄関口となる交通拠点機能及び南北連絡機能の強化と駅周辺の生活基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●駅北口に駅前広場を整備し、快適で利便性の高い駅周辺の都市空間の拡充を図る。 ●駅舎の改築と南北自由通路(市道1595号線)の整備により、駅機能の強化と魅力づくりを図る。 ●北口駅前広場及びアクセス道路(市道1537号線)の整備により、駅利用者の利便性の向上を図る。 ●駅北側周辺の下水道・電線共同溝・防犯カメラ・防災備蓄倉庫等の整備により、生活環境の充実に図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・《基幹》道路(市道1537号線) ・《基幹》道路(市道1595号線(駅舎建替補償費含む)) ・《基幹》下水道(公共下水道) ・《基幹》地域生活基盤施設(防災備蓄倉庫) ・《基幹》高質空間形成施設(公衆トイレ) ・《提案》石和温泉駅舎橋上化(設計のみ) ・《提案》防犯カメラ設置
<p>・整備方針②本市特有の観光資源と歴史文化資源を保全、活用したふれあい空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大蔵経寺山等の自然環境や寺社等の歴史文化資源などを巡る回遊ルートに案内板を設置し、市民・来訪者の回遊性・利便性の向上を図る。 ●駅舎の改築と併せ、駅北側にある大蔵経寺山に観光施設を整備し、玄関口にふさわしい機能の強化と来訪者の利便性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・《基幹》地域生活基盤施設(案内サイン) ・《基幹》高次都市施設(観光案内所) ・《提案》観光施設(大蔵経寺山登山道・トレッキングコース) ・《提案》事業活用調査
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交付期間中の計画の管理について 交付期間中に各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、まちづくり組織を立ち上げ、市と連携を図りながら、事業の進め方や事業結果に関する情報を市民に公開していく。 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動について 各種イベントの開催、まちづくりに関する啓発事業等の活動を継続的に行っていくために、新たにまちづくり団体の組織化を図り、地区全体でのまちづくり活動を展開する。 	

